

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY

2022.11
No. 765



目次

[大学の動き]

- 理事が発令される 5732
- 副学長が発令される 5733
- 副理事が発令される 5734
- 理事補が発令される 5734
- 経営協議会委員(学外委員)が発令される 5735
- 部局長の交替等 5736
- 名誉教授の称号を授与 5738
- 令和4年度大学院秋季学位授与式を挙行 5738
- 令和4年度大学院秋季入学式の祝辞を配信 5744

[部局の動き]

- 第15回次世代グローバルワークショップを開催 5746
- 京都大学創立125周年記念事業
2022年度特別展「創造と越境の125年」を開催 5746

[寸言]

- 「原点」 森澤 篤 5748

[随想]

- 湯川秀樹先生との再会
一旧宅と所蔵資料の京大移管に関わって—
名誉教授 岡田 知弘 5749

[洛書]

- 物置きの油画 石本 健太 5750

[探訪]

- フィールド科学教育研究センター 舞鶴水産実験所
～広報課員が行く～ 5751

[荣誉]

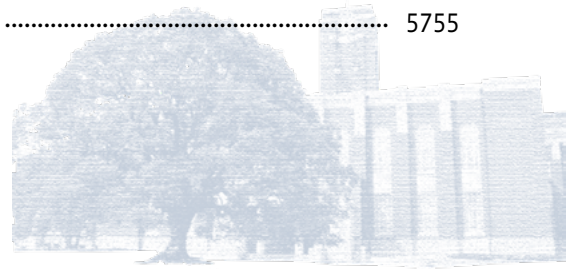
- 吉川忠夫 名誉教授が文化勲章を受章 5753

[訃報]

- 宮原 稔 教授 5755



京都大学



大学の
動き

理事が発令される

現理事の任期満了に伴い、10月1日付けで理事が任命されました。任期は令和6年9月30日まで。



男女共同参画，国際，
渉外（基金・同窓会）担当
副学長
稲垣 恭子（再任）



企画・調整，附属病院担当
プロボスト
副学長
岩井 一宏（新任）



研究倫理，研究公正，
研究規範，経済安全保障担当
副学長
北村 隆行（再任）



研究，評価担当
副学長
時任 宣博（再任）



情報基盤，図書館担当
副学長
引原 隆士（新任）



教育，学生担当
副学長
平島 崇男（再任）



財務，入試，施設，環境担当
副学長
村上 章（再任）

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

副学長が発令される

現副学長の任期満了に伴い、10月1日付けで副学長が任命されました。任期は【 】のとおり。



学術研究支援担当
石川 冬木 (新任)
【令和5年3月31日まで】



教育推進(人文社会系)担当
宇佐美 文理 (再任)
【令和6年9月30日まで】



大学院教育担当
江上 雅彦 (再任)
【令和6年9月30日まで】



法務・コンプライアンス担当
笠井 正俊 (新任)
【令和6年9月30日まで】



国際戦略担当
河野 泰之 (再任)
【令和6年3月31日まで】



学位プログラム担当
杉野目 道紀 (再任)
【令和6年9月30日まで】



学生支援担当
高倉 喜信 (再任)
【令和5年3月31日まで】



国際高等教育院担当
宮川 恒 (再任)
【令和5年3月31日まで】



安全衛生担当
米田 稔 (新任)
【令和6年3月31日まで】

[目次に戻る ↗](#)

副理事が発令される

現副理事の任期満了に伴い、10月1日付けで副理事が任命されました。任期は令和5年3月31日まで。



総務・調整担当
佐藤 昭博 (再任)



企画・調整担当
駒村 正章 (再任)

[目次に戻る ↗](#)

理事補が発令される

(補佐する理事)

*副プロボスト

男女共同参画担当理事 国際担当理事	横山 美夏	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
国際担当理事	北島 薫	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
渉外担当理事	佐藤 卓巳	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
男女共同参画担当理事 研究公正担当理事	蓮尾 昌裕	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
企画・調整担当理事	北川 宏*	(新任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
企画・調整担当理事	出口 康夫*	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
企画・調整担当理事	土井 真一*	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
企画・調整担当理事	萩原 正敏*	(再任)	令和4年10月1日～令和6年3月31日
研究規範担当理事	渡邊 大	(新任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
総務担当理事	橋本 佳幸	(新任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
研究担当理事 評価担当理事	上杉 志成	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
研究担当理事 評価担当理事	田中 勝久	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
研究担当理事 評価担当理事	松浦 健二	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
広報担当理事	砂川 伸幸	(新任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
教育担当理事	高田 彰二	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
学生担当理事	佐藤 健司	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
学生担当理事	八木 知己	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
財務担当理事	若井 克俊	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日

入試担当理事	毛利 透	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日
施設担当理事	金 多 隆	(再任)	令和4年10月1日～令和6年9月30日

[目次に戻る ↗](#)

経営協議会委員（学外委員）が発令される

現経営協議会委員（学外委員）の任期満了に伴い、10月1日付けで経営協議会（学外委員）が発令されました。任期は令和6年9月30日まで。



東日本旅客鉄道株式会社
取締役
天野 玲子（再任）



国立研究開発法人
防災科学技術研究所理事
安藤 慶明（再任）



消費者庁顧問
伊藤 明子（新任）



株式会社島津製作所
代表取締役会長
上田 輝久（新任）



京都市長
門川 大作（再任）



元ユネスコ日本政府代表部
特命全権大使
佐藤 禎一（再任）



住友ファーマ株式会社
特別顧問
多田 正世（再任）



東京大学名誉教授・特任教授
星薬科大学名誉教授・前学長
中西 友子（再任）



京都府知事
西脇 隆俊（再任）

大学の
動き



総合研究大学院大学学長
長谷川 真理子 (再任)



国立研究開発法人量子科学
技術研究開発機構理事長
平野 俊夫 (再任)



株式会社三菱UFJ銀行
特別顧問
平野 信行 (再任)



公益財団法人文字・活字
文化推進機構専務理事
町田 智子 (新任)



西日本電信電話株式会社
相談役
村尾 和俊 (再任)



DMG森精機株式会社
取締役社長
森 雅彦 (新任)

[目次に戻る ↗](#)

部局長の交替等

【新任】

医学研究科長・医学部長

伊佐 正 基礎・社会医学系(大学院医学研究科)教授が、岩井一宏 医学研究科長・医学部長の後任として選出されました。任期は令和4年10月1日から令和6年9月30日まで。



環境安全保健機構長

米田 稔 地球工学系(大学院工学研究科)教授が、吉崎武尚 環境安全保健機構長の後任として選出されました。任期は令和4年10月1日から令和6年3月31日まで。



大学の
動き**図書館機構長・附属図書館長**

永盛克也 文学系(大学院文学研究科)教授が、引原隆士 図書館機構長・附属図書館長の後任として選出されました。任期は令和4年10月1日から令和6年9月30日まで。

**高大接続・入試センター長**

村上章 理事が、有賀哲也 高大接続・入試センター長の後任として選出されました。任期は令和4年10月1日から令和6年9月30日まで。

**【再任】****国際高等教育院長**

宮川恒 農芸化学系(大学院農学研究科)教授が、国際高等教育院長に再任されました。任期は令和4年10月1日から令和5年3月31日まで。

大学院教育支援機構長

江上雅彦 経済学系(大学院経済学研究科)教授が、大学院教育支援機構長に再任されました。任期は令和4年10月1日から令和6年9月30日まで。

学生総合支援機構長

高倉喜信 薬学系(大学院薬学研究科)教授が、学生総合支援機構長に再任されました。任期は令和4年10月1日から令和5年3月31日まで。

情報環境機構長

引原隆士 理事が、情報環境機構長に再任されました。任期は令和4年10月1日から令和6年9月30日まで。

産官学連携本部長

室田浩司 産官学連携本部特定職員が、産官学連携本部長に再任されました。任期は令和4年10月1日から令和6年9月30日まで。

オープンイノベーション機構長

阿曾沼慎司 オープンイノベーション機構特定職員が、オープンイノベーション機構長に再任されました。任期は令和4年10月1日から令和6年9月30日まで。

大学の
動き

国際戦略本部長

河野泰之 地域研究学系（東南アジア地域研究研究所）教授が、国際戦略本部長に再任されました。任期は令和4年10月1日から令和6年3月31日まで。

人と社会の未来研究院長

宇佐美文理 文学系（大学院文学研究科）教授が、人と社会の未来研究院長に再任されました。任期は令和4年10月1日から令和6年9月30日まで。

大学文書館長

伊藤孝夫 法学系（大学院法学研究科）教授が、大学文書館長に再任されました。任期は令和4年10月1日から令和6年9月30日まで。

学際融合教育研究推進センター長

時任宣博 理事が、学際融合教育研究推進センター長に再任されました。任期は令和4年10月1日から令和6年3月31日まで。

[目次に戻る ↗](#)

名誉教授の称号を授与

10月1日付けで次の1名に京都大学名誉教授の称号が授与されました。

氏名	推薦部局
稲垣 暢也	医学研究科

(人事部(人事・労務課))

[目次に戻る ↗](#)

令和4年度大学院秋季学位授与式を挙行

9月26日(月)、百周年時計台記念館において、湊 長博 総長、理事・副学長をはじめ、各研究科長、学館長、学舎長、教育部長、卓越大学院プログラムコーディネーターの出席のもと、大学院秋季学位授与式を挙行しました。

今回の大学院秋季学位授与式の対象は、令和4年5月23日付け授与の課程博士48名、論文博士5名の計53名、同7月25日付け授与の課程博士35名、論文博士6名の計41名、同9月26日付け授与の修士課程92名、専門職学位課程4名、課程博士121名、論文博士9名の計226名、合計320名です。

なお、上記のうち、博士課程教育リーディングプログラムを4名の受講生が、卓越大



学位記を手渡す湊総長

大学の
動き

学院プログラムを1名の受講生が、それぞれ修了しました。

湊総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞がありました。

各分野別内訳は次のとおりです。

修士

学位名	2022年9月26日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
修士（文学）	0	0	0	0	0	0	5,471
修士（教育学）	0	0	0	0	0	0	1,666
修士（法学）	0	0	0	0	0	0	1,558
修士（経済学）	4	9	13	4	9	13	2,066
修士（理学）	4	1	5	3	1	4	12,101
修士（医科学）	0	0	0	0	0	0	436
修士（人間健康科学）	1	0	1	0	0	0	749
修士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	694
修士（工学）	3	0	3	1	0	1	35,350
修士（農学）	11	12	23	8	9	17	11,593
修士（人間・環境学）	0	0	0	0	0	0	3,943
修士（エネルギー科学）	10	5	15	9	5	14	3,063
修士（地域研究）	0	1	1	0	0	0	473
修士（情報学）	13	1	14	8	1	9	4,205
修士（生命科学）	0	2	2	0	2	2	1,676
修士（総合学術）	2	1	3	0	0	0	67
修士（地球環境学）	1	7	8	1	4	5	752
修士（文学）国際連携	2	2	4	2	2	4	20
修士（社会健康医学）	-	-	-	-	-	-	66
修士（薬学）	-	-	-	-	-	-	2,299
総計	51	41	92	36	33	69	88,248

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

修士（専門職）

学位名	2022年9月26日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
社会健康医学修士（専門職）	1	1	2	1	1	2	564
公共政策修士（専門職）	1	0	1	0	0	0	605
経営学修士（専門職）	0	0	0	0	0	0	1,187
総計	2	1	3	1	1	2	2,356

大学の
動き

法務博士（専門職）

学位名	2022年9月26日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
法務博士（専門職）	1	0	1	0	0	0	2,649
総計	1	0	1	0	0	0	2,649

博士

■課程博士 令和4年5月23日付け，7月25日付け，9月26日付け

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2022年5月			2022年7月			2022年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	0	0	0	1	0	1	1	3	4	5	1,201
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（教育学）	1	0	1	1	1	2	2	0	2	5	280
	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	410
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（経済学）	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	738
	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	
博士（理学）	7	4	11	3	2	5	15	6	21	37	5,949
	1	2	3	1	1	2	9	5	14	19	
博士（医学）	5	3	8	9	3	12	9	7	16	36	10,637
	0	1	1	0	1	1	0	2	2	4	
博士（医科学）	0	1	1	2	0	2	1	0	1	4	143
	0	1	1	1	0	1	1	0	1	3	
博士（社会健康医学）	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	125
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間健康科学）	2	1	3	1	1	2	0	0	0	5	106
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,165
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3	160
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	
博士（工学）	8	3	11	5	0	5	24	6	30	46	6,445
	3	2	5	1	0	1	10	5	15	21	
博士（農学）	1	2	3	0	0	0	7	3	10	13	3,167
	1	0	1	0	0	0	7	3	10	11	

大学の
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2022年5月			2022年7月			2022年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（人間・環境学）	3	0	3	1	0	1	2	2	4	8	1,055
	0	0	0	1	0	1	1	1	2	3	
博士（エネルギー科学）	1	1	2	0	0	0	3	0	3	5	452
	0	1	1	0	0	0	3	0	3	4	
博士（地域研究）	0	1	1	0	1	1	0	1	1	3	308
	0	1	1	0	0	0	0	1	1	2	
博士（情報学）	0	0	0	0	1	1	12	0	12	13	811
	0	0	0	0	1	1	4	0	4	5	
博士（総合学術）※1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	1	1	2	0	0	0	3	2	5	7	486
	0	1	1	0	0	0	1	1	2	3	
博士（総合学術）※2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地球環境学）	0	0	0	2	1	3	2	1	3	6	235
	0	0	0	2	1	3	0	1	1	4	
博士（経営科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（ゲノム医学）国際連携	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
総計	31	17	48	25	10	35	86	35	121	204	33,925
	6	9	15	6	4	10	41	22	63	88	

※1：情報学研究科修了 ※2：総合生存学館修了

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

■論文博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2022年5月			2022年7月			2022年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	665
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（教育学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	180
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	203
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

大学の
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2022年5月			2022年7月			2022年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（経済学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	409
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（理学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,578
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（医学）	1	1	2	1	0	1	2	0	2	5	2,261
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（医科学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	9
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（社会健康医学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間健康科学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	11
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	773
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	6
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（工学）	0	2	2	1	1	2	0	0	0	4	4,203
	0	2	2	1	0	1	0	0	0	3	
博士（農学）	0	0	0	1	2	3	2	1	3	6	2,906
	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2	
博士（人間・環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（エネルギー科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（情報学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	96
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地球環境学）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	16
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	1	4	5	3	3	6	6	3	9	20	13,508
	0	2	2	1	1	2	1	0	1	5	

大学の
動き

■博士課程教育リーディングプログラム（博士課程内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2022年5月			2022年7月			2022年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
京都大学大学院思修館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
グローバル生存学大学院連携プログラム	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	49
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
デザイン学大学院連携プログラム	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	30
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	21
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
総計	0	1	1	0	0	0	2	1	3	4	156
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	

■卓越大学院プログラム（博士課程内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2022年5月			2022年7月			2022年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
先端光・電子デバイス創成学	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	16
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
メディカルイノベーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	16
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	



式典の様子

(教育推進・学生支援部(教務企画課))

[目次に戻る ↗](#)

令和4年度大学院秋季入学式の祝辞を配信

令和4年度大学院秋季入学式について、新型コロナウイルス感染症の影響で式典は執り行わず、湊 長博 総長の祝辞をインターネットで配信することとしました。

秋季大学院入学者は修士課程90名、専門職学位課程3名、博士（後期）課程128名です。各分野別内訳は次のとおりです。

令和4年秋季 修士課程入学者数

区 分	入 学			左記のうち留学生数		
	男	女	計	男	女	計
経済学研究科	12	9	21	8	4	12
理学研究科	6	5	11	6	5	11
薬学研究科	3	2	5	3	2	5
工学研究科	1	0	1	1	0	1
農学研究科	6	7	13	6	7	13
エネルギー科学研究科	5	5	10	5	5	10
情報学研究科	11	2	13	5	1	6
生命科学研究科	5	4	9	5	3	8
地球環境学舎	3	4	7	3	4	7
総 計	52	38	90	42	31	73

令和4年秋季 専門職学位課程入学者数

区 分	入 学			左記のうち留学生数		
	男	女	計	男	女	計
医学研究科	0	1	1	0	0	0
経営管理教育部	2	0	2	0	0	0
総 計	2	1	3	0	0	0

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

令和4年秋季 博士（後期）課程入学者数

区 分	進 学		編入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計
	女		女		女	
経済学研究科 博士後期課程	3 (3)	6 (6)	4 (3)	6 (5)	7 (6)	12 (11)
	3 (3)		2 (2)		5 (5)	
理学研究科 博士後期課程	3 (2)	4 (3)	6 (6)	11 (11)	9 (8)	15 (14)
	1 (1)		5 (5)		6 (6)	
薬学研究科 博士後期課程	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	1 (0)	2 (1)
	0 (0)		1 (1)		1 (1)	

大学の
動き

区 分	進 学		編入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計
	女		女		女	
工学研究科 博士後期課程	1 (1)	1 (1)	30 (15)	42 (26)	31 (16)	43 (27)
	0 (0)		12 (11)		12 (11)	
農学研究科 博士後期課程	4 (4)	8 (8)	3 (3)	3 (3)	7 (7)	11 (11)
	4 (4)		0 (0)		4 (4)	
エネルギー科学研究科 博士後期課程	2 (2)	3 (3)	8 (6)	11 (9)	10 (8)	14 (12)
	1 (1)		3 (3)		4 (4)	
情報学研究科 博士後期課程	2 (1)	2 (1)	15 (6)	18 (9)	17 (7)	20 (10)
	0 (0)		3 (3)		3 (3)	
生命科学研究科 博士後期課程	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	3 (3)
	0 (0)		3 (3)		3 (3)	
地球環境学舎 博士後期課程	0 (0)	1 (1)	2 (1)	7 (6)	2 (1)	8 (7)
	1 (1)		5 (5)		6 (6)	
総 計	15 (13)	25 (23)	69 (40)	103 (73)	84 (53)	128 (96)
	10 (10)		34 (33)		44 (43)	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

(教育推進・学生支援部(教務企画課))

[目次に戻る ↗](#)



材，活動の記録などを紹介します。

これらの展示を通じ，京都大学の学生，教員，職員が，弛まぬ研鑽と対話によって積み重ねてきた歴史と新たな時代に紡いでいく自由の学風を感じられるようになっています。

開館時間は午前9時30分～午後3時30分（入館は午後3時まで）。休館日は月・火曜日（平日・祝日にかかわらず）です。

（総合博物館）

[目次に戻る ↗](#)

寸言

「原点」

森澤 篤



先日、京大ラグビー部時代の酒井先輩から1984年の試合動画を複数頂いた。粗い画面の中で若き自分が背番号13の濃紺ジャージをまとい走り回る姿を観るうちに、当時のことが次々と思い出された。

湘南高校でラグビーを始め、大学選手権に出ようと京大に進んだ。当時京大は国立大学最多の4回出場。筑波は1回、東大は0回。頑張れば関西Aリーグ上位で出場するチャンスありと信じた。

入学と同時にラグビー部に入り厳しい練習の毎日だった。当時は同志社の全盛で関西Aリーグは熾烈な戦いの連続。この年、先輩たちの奮闘も虚しく創部以来初めてBリーグに降格となってしまった。私も夏前に足首を複雑骨折し1983年は失意の一年目だった。

翌1984年、Aリーグ復帰への取り組みが始まり練習はさらに過酷となった。夏合宿には多数のOBが叱咤激励に訪れ、慶應大学との合同練習では「魂の慶應」と一緒にボロボロとなり、京都でも実業団チームの胸を借りてはさらにボロボロになりながら練習した。

しかし、なぜかこの年は練習を辛いと感じなかった。黒田キャプテンの「おう、後輩たちのために一年ででったいAに戻るぞ!!」という言葉が、自分の力となっていた。チームのみんなも同じで、この年の纏まり方とラグビーへの姿勢はレベルが違ったと思う。

この冬、関西Bリーグで全勝優勝し立命館との入替戦にも完勝、1シーズンでAリーグに復活した。この嬉しさと言ったら、言葉では言いつくせないものだった。

今思うと、元々大学選手権を目標にしたのに、一番燃えていたのはなぜかBリーグにいた時だった。Aリーグでその後の2年も必死に懸命にやったつもりだったが、何か違った。

大学選手権に出るのは自分の目標。Aリーグ復帰は、もちろん自分のためでもあるが、後輩やOBに対する自分たちの使命でもあった。Bリーグの時こそ、そこにチームとしての強烈な「使命感」があり、皆んながそれを明確に共有していたのだ。

その後、仕事においても「使命感」の明確さが取り組み姿勢や成果を大きく左右することを痛感してきた。自分たちの仕事は顧客や世の中にどう役に立つのか、その意義をチームが具体的に納得して腹に落ちた時にはどんな困難があろうと乗り越える力が出るのを実感し、常にそこを意識するようになった。

そして今、企業経営を任せて頂く中で改めて感じるのは、会社を一つのチームとして強くしていく上での「使命感」共有の大切さである。今流の言い方をすればパーパスかもしれないが、より切実な「使命感」を社員みんなが腹に落としているかどうか、本当に大きな違いを生む。

「我々の会社は、また我々の仕事は世の中にどう役立つのか?」「我々の製品・サービスで助かる人・幸せになる人はどういう人たちなのか?」「どうすればそういう人たちを増やせるのか?」

答えを綺麗事では終わらせず、青臭くとも真正面から取り組み自分事化し、共有する。これが何よりも大切であることを、私の原点として教えてくれたのが京都大学ラグビー部だった、と今日懐かしさを噛み締めながら思うのである。

(もりさわ あつし、アリナミン製薬株式会社代表取締役社長、昭和62年工学部卒業)

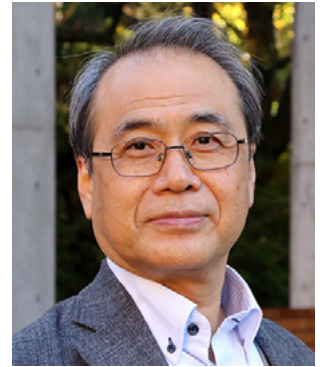
[目次に戻る ↗](#)

随想

湯川秀樹先生との再会

—旧宅と所蔵資料の京大移管に関わって—

名誉教授 岡田 知弘



それは、思いがけない偶然の出遭いから始まりました。すでにご承知かと思いますが、昨年、湯川秀樹先生の旧宅が京都大学に移管されました。それに先立って、湯川家とその知人からの依頼で、下鴨神社脇にある湯川邸をお訪ねしたのは、一昨年11月のことでした。湯川先生が、生前、こよなく愛された庭の紅葉が色づいていた頃です。

なぜ地域経済学を研究している者が、と不思議に思う方も多いのではないのでしょうか。一昨年、たまたま大阪駅前の一室で京大機械系工学会（京機会）の研究会があり、講演する機会がありました。その後の交流会の会話のなかで「湯川秀樹先生」という言葉を耳にし、つい「僕は、大学に入学した時に、湯川先生の講演を直に聞いたことがあるんですよ」と口走ったのがきっかけでした。

実は、私は、故郷の高岡高校理数科に通っていた頃、湯川先生の『旅人』を読んで感動し、一時は京大理学部への進学も考えたほどでした。その後、関心が地理学に移り文学部に入学、さらに地域経済学に興味を抱き経済学部に移りました。しかし、大学院生になっても新入生の時に聴いた湯川先生の講演が忘れられず、岩波書店の著作集を全巻購入した湯川ファンでもありました。

それから約半世紀。その湯川先生の終の棲家となった居宅に、まさか自分が訪問することになるうとは、思いもよらぬことでした。湯川先生が、ご家族とともに日常生活を営み、多くの科学者や文人の皆さんと交流し、さらに核廃絶をめざす議論をしたり、思索を練った同じ場にいると思うと、パワースポットにいるような感覚になってしまいました。

部屋の中には、湯川先生が尊敬した西田幾多郎直筆の扁額や、「一日生きることは一日進むことでありたい」と書かれた座右の銘も飾ってありました。この湯川邸を京大に移管、保存し、後世に伝えるために、尾池和夫 元総長や山極壽一 前総長、そして教え子の佐藤文隆先生や坂東昌子先生たちが動き、私が代表を務める「湯川秀樹旧宅の保存と活用を願う市民の会」もその一端を担いました。結果、湊 長博 総長の英断により、京大が湯川邸を継承することになりました。本当に嬉しいことでした。ちなみに、湊総長も高岡高校出身であり、『旅人』が愛読書であったそうです。

移管後、邸内の遺品類の調査・分別を、私たち「市民の会」がお手伝いしました。自宅ならではの初見の資料類が次々と見つかりました。小川秀樹名による西田幾多郎『哲学概論』の講義ノートもありました。加えて内外の著名人からの書簡類、ノート、著作・講演原稿、写真・ビデオ類、そして日記や和歌集、スミ夫人と共作の書画類などが膨大に残されていたのです。現代日本を代表する科学者の一人として、京大の精髓を体現したともいえる人間・湯川秀樹の全体像を知るための貴重な資料群です。今後、新湯川邸を中心に、これらの資料総体を長く京都大学で保存・活用することができれば、人文・社会科学分野を含む湯川秀樹の総合的研究が大きく進展し、社会発展に寄与することは間違いないと思います。

（おかだ ともひろ、平成31年退職、元大学院経済学研究科教授、専門は地域経済学）

[目次に戻る ↗](#)

洛書

物置きの油画

石本 健太



その果物の静物画は叔父が描いたものである。捨てることができなかつた、と申し訳なさそうに父の実家の物置きに置かれていた。子供心に、画家の叔父の生き方に憧れた。田舎のサラリーマン家庭に育った私には、年に一度東京からやってくる（普段の仕事の様子が想像できないと言う意味で）得体の知れない、とても優しい人であった。他の人には見えない何かが見えているように感じられ、なんだか格好良かった。自身の作品についてはほとんど何も語ってくれなかつた。絵も音楽も、芸術方面の才能が欠片も無い私には、芸術の世界はよく分からない遠い異国のままである。

何か他の人と違うこと、まだ名前のついていない何者とも表現できないようなことがしたい、という思いが時折顔を覗かせるのは、そんな叔父の影響かもしれない。いつだったか、叔父が実家に遊びに来た際に、妹とふたり美術館に連れて行ってもらった。ピカソやウォーホルを見た記憶は残っている。その中で、はっきりと思い出せないのだが、いわゆる現代アートと呼ばれる類の「なんか糸がビョーンってなってるだけの作品」が展示されていた。いままでこれが芸術だと誰も気づいていなかったことを作品にしたことが凄かつたんだ、と説明してくれたのを覚えている。

今は、水中を泳いでいる生き物、特に単細胞生物の動き、について研究している。生き物を取り囲んでいる流体に関する方程式をあれこれと観察する。数理的な構造から見えてくる生き物と周囲の環境を、一体として描き出そうとしている。ひょんなことから取り組み始めたこのテーマは、学生時代からさほど変化がない（と世間には思われるだろう）。そういえば、叔父もいつからか、小屋をモチーフとした絵をひたすら描くようになった。描くことによって新しい一面が見えてくるのだろう。

彫刻や絵画から映画やCG、そして電腦世界へ。新しい技術は新しい表現を可能にした。生き物の流れや動きも、数学理論からスーパーコンピュータ、実際の生き物のハイスピードカメラによる撮影まで、種々の表現手法の合わせ技で未知の世界を見せてくれる。

私のここ数年のメインの研究は「流体を通して見た生き物の形」である。それは目で見た実際の形よりずっとぼんやりしていて、その種類は実に少ないことがわかってきた。例えば、四角形と円は等しいが、三角形とは異なっている。数式を介してしか見ることができない、その形の全容解明が当面の目標である。

叔父は還暦を迎えたばかりだが、画家の世界ではその年齢はまだ若手だという話も聞いたことがある。研究者の世界よりもずっと長い修行が必要なのだろう。なんとなくわかる気もする。いつも少し遠いところにいる分、その背中では遠いままに感じる。私の修行もまだまだ続く。

(いしもと けんた, 数理解析研究所准教授, 専門は応用数学・流体力学・数理生物学)

[目次に戻る ↗](#)

探訪

このコーナーでは、職員が本学の研究施設等に実際に足を運び、現場での取り組みや職員が感じたことをレポート形式で不定期にお伝えしていきます。

フィールド科学教育研究センター 舞鶴水産実験所
～広報課員が行く～

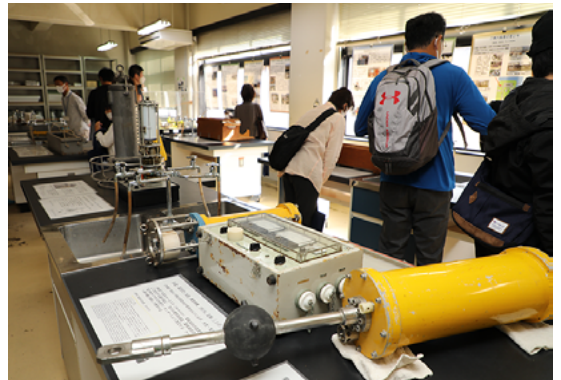
舞鶴湾を間近に臨む京都府舞鶴市長浜。ここに日本海側で最大・最古の大学附属水産実験所がある。舞鶴水産実験所だ。フィールド科学教育研究センターの海域ステーションであり、河口・沿岸域を主なフィールドとして魚類をはじめとする水生生物の生態、生理、行動、分類および水産学や環境学に関する教育研究活動が行われている。所有する魚類標本の数は国内第2位の規模を誇る。今年で設置50周年の節目を迎えた。今回は、同実験所の協力のもと、10月30日に開かれた特別公開に同行取材させてもらった。



舞鶴水産実験所 標本館

同実験所は、1972年に「農学部附属水産実験所」として水産学科の跡地に設置された。2003年にフィールド科学教育研究センターに移管され、現在の「舞鶴水産実験所」に改称された。2ヘクタールの敷地内には標本館や飼育棟、研究棟、宿泊棟などの施設を備える。2011年から、教育関係共同利用拠点として文部科学省から認定され、他大学との共同利用研究・実習も進められているほか、近隣の高校生の実習を受け入れるなど、地域との交流にも力を入れている。

今回取材で訪れた特別公開は、全国にある京都大学の教育研究施設で施設公開や公開講座などを実施する「京大ウィークス」の一環として開催された。午前と午後の2部制で、親子連れや卒業生など約100人が参加した。標本庫や飼育棟、調査船「緑洋丸」の見学ツアー、貴重な観測機器の実物展示などが行われた。



歴代観測機器の展示

標本館1階では、今回初公開となる海洋観測機器が展示された。1940年代以降の観測機器が並び、訪れた人たちが興味深く眺めていた。中でも1950年代に使われていた水深水温記録器は、電源を用いない純機械式で、温度と水圧の変化から水深と水温を自動で記録することができる。今ではほとんど現物が残っておらず、当時の調査法を知る貴重な品だという。

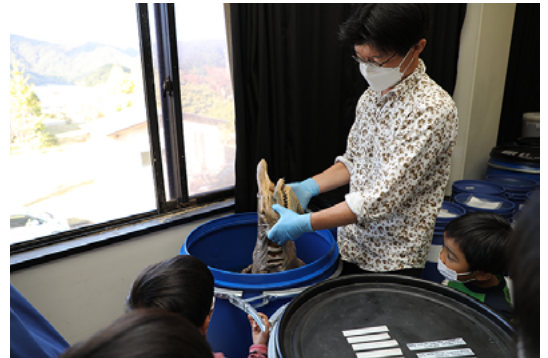
見学ツアーで、最初に訪れたのは調査船「緑洋丸」（全長17.7m、総トン数14t、最大速力毎時38km、定員26名）。2015年に建造された教育研究船で、水深300mまで調査が可能という。普段は、遠方海域の調査や高校生の実習活動などで使用



調査船「緑洋丸」を見学する参加者

されており、夏は週に2～3回、冬は月に数回出航している。案内役の鈴木啓太 助教が「後甲板に漁業クレーンが設置されていることが大きな特徴の一つだ」と教えてくれた。クレーンがあることで、重い底引き網を引き上げることができる。参加者は船に乗り込み、前甲板からはしごを下りた所にある2畳ほどの船員室に入ったりして楽しんでいた。

続いて標本庫を見学した。保管されている魚類標本の数は、合計で約4,000種、約400,000点。日本で確認されている魚類は約4,500種とされ、「ここでは日本で確認されているほとんどの魚を見ることができる。珍しい魚を見るためにフランスから研究者が訪れることもある」と案内役の甲斐嘉晃 准教授が説明。リュウグウノツカイやチョウチンアンコウ、サメなどの迫力のある標本を甲斐准教授が手にとって紹介すると、子どもたちは歓声を上げていた。今年9月には、同実験所近くの若狭湾で甲殻類の新種「ワカサナモグリ」を発見したという研究成果も発表され、注目を集めている。



標本を紹介する甲斐准教授

最後は飼育棟を訪れた。舞鶴湾からくみ上げた海水で製造されたろ過海水で、実験などに使われる数百匹の海産生物が飼育されている。ここでは、マダイやカワハギ、スナヒトデなど20種類以上の生き物に触ることができる企画「タッチプール」が行われた。参加した子どもたちは生き物を網ですくい、うれしそうに触ったり、興味深く観察したりしていた。



タッチプールで海の生き物を手に持つ子供たち

このほか、金魚が水槽の中に入れた小さなボールをゴールまで運ぶことができたならエサを与えるという実験も行われた。この実験を繰り返し行うことで、金魚はボールを運ぶことを学習し、いずれはエサがもらえるアタリのゴールともらえないハズレのゴールを判別できるようにもなるという。

飼育棟では魚の生態やその水産学的応用に関する研究が行われている。案内してくれた高橋宏司 助教は「どのようなエサを与えれば魚がより大きく育つのかや魚のストレスなどについて知ることは、養殖や漁業などにも役立つことができる」と話す。このほか、「魚の心」に関する研究も進められている。近年の研究からも魚はヒトに似た認知機能を備えていることが明らかになりつつあるという。「好奇心を持つようになるためにはどのように育てたら良いのかなど、魚の心を探ることが、ヒトの心を知ることもつながるかもしれない」と高橋助教は期待する。

近年では、地球温暖化による海への影響にも注目が集まる。同実験所長の益田玲爾 教授は「日本海でもこの10年で海水温度は0.2℃ほど上昇し、南洋から北上してきた魚が増えるなど、海の中でも明瞭な変化が見られる。ここでの教育研究活動やこうしたイベントを通して将来の海について思い、今何をすべきなのか考えるきっかけになってほしい」と話した。

(広報課 (家城健太・大田桃子))

栄誉

吉川忠夫 名誉教授が文化勲章を受章

このたび、吉川忠夫 名誉教授が令和4年度文化勲章を受章され、11月3日(木)に皇居において親授式が行われました。以下、同氏の略歴および業績を紹介します。

吉川忠夫名誉教授は、昭和34年に京都大学文学部史学科を卒業、東海大学文学部講師、本学教養部助教授を経て、同49年に人文科学研究所助教授に配置換、同59年に教授に昇任、平成3年より2年間、人文科学研究所長を務められ、同12年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられました。

平成18年、日本学士院会員に選出され、同25年、文化功勞者に選定されました。

吉川名誉教授は、秦漢時代から唐代に至る中国史および中国思想史の分野において、数々の優れた業績を挙げてこられました。驚くべき読書量に裏打ちされた厳密な中国文献の読解は、文学・史学・哲学といった学科の範囲を越え、中国文化の真髄に迫るものであり、学史に遺る多数の名論文を生み出されました。

同名誉教授の研究のうち、もっとも重要な業績は六朝隋唐時代における精神史に関するものでしょう。中国思想史上における六朝隋唐時代の特徴は、漢代以来の伝統を継承する儒教、西方から伝来した仏教、そして中国人の民族宗教としてこの時期にかたちを整え始めた道教、これら三者が並存し、相互の浸透・反発・融合が繰り返された、中国史上他に例を見ない宗教の時代であったという点にあると言えます。吉川名誉教授は、このような儒教・仏教・道教が複雑に錯綜した時代の人々の生活と精神の営みとを、広汎な資料を駆使し、かつ綿密な文献批判のもとに生き生きと描きだすことにより、従来の歴史研究や思想史研究の枠に収まらない、独創的な観点と方法とを打ち立てることに成功されました。その研究成果は、『六朝精神史研究』、『六朝隋唐文史哲論集』(全2巻)、『中国人の宗教意識』などの著作に収録されています。

学術論文に限らず、吉川名誉教授の著作はすべて格調高い名文によって綴られています。たとえば、南朝宋の創始者である劉裕を例として、武人と貴族とが合体融合して権力を形成した南朝政権の本質を明らかにした『劉裕』、東晋期に文化的優位を保ちつつも、中国北部を異民族支配に委ね、南北対峙の状況を受け入れざるを得なかった南朝政権が、梁末に起こった侯景の乱を契機として軍事的破綻をきたし、やがてその終焉を迎えるに至った過程と、そこにあらわれた南朝貴族社会の特徴を解明した『侯景の乱始末記—南朝貴族社会の命運』、書家として有名な顔真卿の忠義を活写した『顔真卿伝—時事はただ天のみぞ知る』などは、時代の営みを生き生きとした筆遣いで描き出した一般向けの書物であり、その格調高い筆遣いと語り口で多くの読者を魅了し、現在に至るまで版を重ねています。

また、人文科学研究所で組織された共同研究班の成果である『真誥研究(訳注篇)』と『周氏冥通記研究(訳注篇)』の2書は、六朝道教の重要かつ難解な文献について高水準の訳注を施したものであり、国内はもとより中国においても高い評価を得、両書ともに中国語に訳出・出版され、彼の地の学界を裨益しています。

また岩波書店より刊行された『後漢書』全10冊は、深い学識に裏付けられた訓読ならびに注であり、余人の追隨を許さぬ古典の読解力を遺憾なく発揮されたものです。その後と同じく岩波書店より刊行された『高僧伝』全4冊は、初期の中国仏教の歴史を伝える重要文献でありながら、それまで翻訳がなかったのを、船山 徹 教授とともに訳注されたもので、これも画期



栄誉

的業績です。吉川名誉教授の古典読解は、その水準の高さが世界的に知られており、これらの翻訳は、今後も長く読み継がれるにちがいありません。

以上のような学問的成就が大いに重んじられ、吉川名誉教授はこれまでもさまざまな栄誉を受けられています。平成21年1月、宮中における講書始において、「後漢、六朝時代における中国人の仏教受容」という題目のもとに進講されたことも、そのひとつです。すでに学士院会員・文化功労者の栄誉を受けてこられた吉川名誉教授が、今回さらに文化勲章を受章されたことは、同名誉教授をさらに顕彰するものであり、まことに喜ばしいかぎりです。

(人文科学研究所)

[目次に戻る ↗](#)

訃報

このたび、宮原 稔 教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。
以下に同氏の略歴、業績等を紹介いたします。

宮原 稔 教授

宮原 稔先生は、8月11日逝去されました。享年62。

先生は、昭和57年3月京都大学工学部化学工学科を卒業後、同大学大学院工学研究科化学工学専攻に進学されました。1年間の米国ウィスコンシン大学での留学を経験し、同60年3月に修士課程を修了された後には、住友化学工業株式会社に入社されました。その後、同62年1月に京都大学工学部化学工学科助手として着任され、平成7年8月から1年間、米国コーネル大学で文部省在外研究員として研究活動を行った後、同9年12月京都大学大学院工学研究科助教授、同16年10月教授に就任し、化学工学専攻化学工学基礎講座界面制御工学分野を担当されました。この間、平成6年7月に京都大学博士(工学)の学位を授与されています。在任中は、吸着工学、微粒子工学、粉体工学といった界面制御に関わる学問分野の教育・研究に努めてこられました。志半ばで逝去されました。



先生は、一貫して吸着工学の専門家として、新たな地平を切り拓いてこられました。吸着操作の基礎として重要な、ナノ細孔内での相状態の理解と解析的モデル化を、世界に先駆けて実現されたのはその一例です。これらの取り組みでは、ナノ空間内で分子が細孔壁から受ける相互作用エネルギーが、分子同士と比べてどの程度過剰か、を表す「過剰相互作用エネルギー」という新たな物性と、それがもたらすナノ空間内における異常な圧力が、現象の謎を解く鍵であるという独創的概念を提案することで、工学的有用性の高い成果をなし得ており、世界的にも高く評価されています。先生の一連の研究は、「機構解明と鍵物性」また「ミクロからマクロまで」という基礎物性の理解から応用展開までを指向した工学の王道と呼べる取り組みで、その業績に対して、令和元年度日本吸着学会学術賞、同3年度化学工学会学会賞が授与されています。その他、平成5年度化学工学会奨励賞、同8年度日本吸着学会奨励賞、同25年度化学工学会研究賞、同30年度化学工学会フェロー表彰、粉体工学会から同24年度と同28年度の論文賞を受賞されています。

教育と研究指導においては、化学工学の基礎を徹底して教え込み、社会で通用する化学工学者の育成に尽力されました。さらには、研究者の育成にも注力され、先生の研究室からは博士号取得者が輩出し、現在も大学や企業等で活躍しています。学外の学会活動では、化学工学会、粉体工学会、日本吸着学会、国際吸着学会で数々の役職を歴任されました。特に、日本吸着学会と国際吸着学会では、会長という重責を担われ、日本国内だけでなく国際的な視野から、吸着分野の研究、技術の発展に多大な貢献をされました。

(大学院工学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

京大広報
No.765

令和4年11月25日発行

発行 京都大学総務部広報課
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
E-mail:kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※ご意見・ご感想をお寄せください。

「京大広報」の既刊号は、次のURLでご覧いただけます。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kouhou/>

京大力、新輝点。



2022年、京都大学は創立125周年
URL:<https://125th.kyoto-u.ac.jp>